

平成17年12月期 第3四半期業績の概況（連結）

平成17年11月7日

会社名	株式会社ワールドインテック	上場取引所	JASDAQ
コード番号	2429	本社所在都道府県	福岡県
(URL http://www.witc.co.jp)			
代表者	役職名	代表取締役	
	氏名	伊井田 栄吉	
問い合わせ先	責任者役職名	取締役社長室長	
	氏名	高塚 輝三	TEL (03) 3516-1122

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
(内容)
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
(内容)
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無
(内容)

2. 平成17年12月期第3四半期業績の概況（平成17年1月1日 ～ 平成17年9月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年12月期第3四半期	16,026	(-)	427	(-)	396	(-)	189	(-)
16年12月期第3四半期	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-	(-)
(参考) 16年12月期	19,532		649		623		316	

(注) 第3四半期の概況は当第3四半期から作成しておりますので、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期連結会計期間（平成17年1月1日～平成17年9月30日）におけるわが国経済は原油価格の高騰による影響等の不安要素もありましたが、穏やかな回復基調のもとで推移いたしました。

製造業における人材ビジネス業界は、景気の回復傾向により人材の需要は堅調推移しております。特に高度なスキルを有する人材（技術者・研究者）の需要増加は顕著であり、今後もこの傾向は継続すると思われま

一方、当業界への需要増加、製造派遣の解禁（平成16年3月）による参入障壁の軽減等により、人材確保（供給面）での競争激化の状況が続いております。

このような状況下の中、当社グループは下記の施策を実行してまいりました。

- (1) 受注競争に対応するため、クライアントのコンプライアンス経営（法令遵守）に応え、取引先企業としての信頼を獲得するため『製造請負基準書』を作成いたしました。なお、この『製造請負基準書』は当社グループの実際の取組みを基準に作成しており製造業における人材ビジネス業界では、国内で初めて行政機関（厚生労働省福岡労働局 平成17年9月）からの承認証を受領いたしました。このことにより現状及び来年度以降のクライアントの製造計画に合わせた受注の拡大は、第4四半期以降顕著に表れております。
- (2) 人材確保（供給面）の競争に対応するため、自社内育成の実施を目的とし、つくばTEC（つくば研修センター）を設立いたしました。主に設計・開発等の技術者、半導体関連業務の技術者及び作業者を教育・育成することが可能となります。また、入社後、社員とのより一層のコミュニケーションづくりを目的としたスタッフサポートセンターを開設して福利厚生を充実を図りました。
- (3) 技術者・研究者の需要に対応するため、年初計画を上回る営業拠点の開設を実施いたしました。

営業拠点数を整理いたしますと、下記のようになります。

	平成16年12月末	当期出店数	平成17年9月末
ファクトリー（国内）	24	13	37
ファクトリー（海外）	1	—	1
研究技術	5	6	11
各種サービス	5	—	5
採用センター（国内）	6	—	6
採用センター（海外）	—	1	1
計	41	20	61

さらに、年内5拠点の出店を予定しております。

これらの結果、当社グループの第3四半期連結業績は、売上高16,026百万円、経常利益396百万円、四半期（当期）純利益189百万円となりました。

第4四半期以降について付言いたしますと、第3四半期以降の受注及び人員は大幅に増加（下記：在籍人員売上高推移表）しておりますが、その反面投資コスト（人材の募集費、人材への社宅投資、新規出店コスト等）の増加により利益の伸び率は鈍化している現状であります。

しかし、第3四半期までの在籍人数の増加は、第4四半期以降の売上増、収益確保に大きく寄与するものと考えております。

参考までに在籍人数と売上の推移を記載いたします。

単体 在籍人員売上高推移表

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期 見込み
期末在籍人員（名）	5,335	5,710	6,625	7,225
月平均増減人員（名）	△83	125	305	200
売上高（百万円）	4,750	4,951	5,740	6,041

[参考] 平成17年12月期第3四半期の単体業績概況 (平成17年1月1日 ~ 平成17年9月30日)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年12月期第3四半期	15,441	(-)	433	(-)	410	(-)	202	(-)
16年12月期第3四半期	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-	(-)
(参考) 16年12月期	17,979		766		741		401	

セグメント別の売上高を見ますと、次のとおりであります。

セグメント別の売上高

(単位：百万円)

セグメント	売上金額	
	連結	単体
ファクトリー事業	14,565	14,201
研究技術事業	1,239	1,239
各種サービス事業	221	-
計	16,026	15,441

3. 平成17年12月期の業績予想 (平成17年1月1日~平成17年12月31日)

第3四半期の業績は予定通り推移しており、平成17年4月21日に公表しました業績予想に変更はありません。

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、為替変動等の潜在的なリスクや不確実性が含まれております。この影響のため、実際の業績が予想の数値と異なる可能性があります。

※ 財政状態(連結)の変動状況については、平成17年11月8日(火)に追加開示いたします。

(要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科目	当四半期 (平成17年12月期 第3四半期)		(参考) 平成16年12月期	
	金額	構成比率	金額	構成比率
I 売上高	16,026	100.0	19,532	100.0
II 売上原価	13,664	85.3	16,528	84.6
売上総利益	2,362	14.7	3,004	15.4
III 販売費及び一般管理費	1,935	12.1	2,355	12.1
営業利益	427	2.7	649	3.3
IV 営業外収益	6	0.0	13	0.1
V 営業外費用	36	0.2	38	0.2
経常利益	396	2.5	623	3.2
VI 特別利益	—	—	13	0.1
VII 特別損失	—	—	15	0.1
税金等調整前四半期 (当期)純利益	396	2.5	622	3.2
法人税、住民税及び事 業税	216	1.4	356	1.8
法人税等調整額	△9	△0.0	△50	△0.3
四半期(当期)純利益	189	1.2	316	1.6